

交通ルールを守って
つながる笑顔



かながわの交通

2013

6

今年の交通安全年間スローガン子ども部門(内閣総理大臣賞)

ヘルメット ぼくのだいじなおともだち



第44回二輪車安全運転神奈川県大会



自転車はどこを走ったらいいの...? 教えて!

自治会・企業・高齢者の集まりなどで

チリン・スクール を一緒にやりませんか。



◎県内の交通事故発生概況(25年5月末)

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数
平成25年		13,738	61	16,335
平成24年		14,564	58	17,308
増減数		-826	+3	-973
増減率		-5.7	+5.2	-5.6

◎県人口・運転免許人口

	総数	男	女
県人口	9,079,150	4,545,136	4,534,014
免許人口	5,554,876	3,226,567	2,328,309
割合	1.6人に1人	1.4人に1人	1.9人に1人

(県人口は平成25年5月1日、免許人口は平成25年4月末現在)

九都県市一斉自転車マナーアップ 運動推進結果

平成25年5月1日～同年5月31日

神奈川県交通安全対策協議会が主唱する「九都県市（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市）一斉自転車マナーアップ強化月間」の5月中、県内各地域において自転車利用者の交通ルールの遵守とマナーの向上について、広く県民に普及、浸透させる活動や自転車が関係する交通事故防止の広報啓発活動等を実施しました。

自転車交通事故発生状況（5月末：概数）

	自転車事故		
	発生日数	死者数	負傷者数
平成25年	3,152	10	3,101
前年同期比	-130	+8	-149
増減率	-4.0	+400.0	-4.6
構成率	22.9	16.4	19.0

※構成率は交通事故総数（表紙下段参照）に占める自転車事故の割合を示す。

自転車マナーアップキャンペーン

スローガン《自転車も のれば車の なかまわり》

5月16日（木）には、横浜駅西口ダイヤモンド地下街入口横において、県交対協、神奈川県交通安全母の会、戸部警察署等と連携し、自転車マナーアップキャンペーンを実施し、横浜駅利用者、買い物客等多くの通行者にチラシや啓発物品を配布しながら、交通ルールの遵守とマナーの向上を呼びかけました。

第8回理事会開催

～平成24年度事業・決算報告～

平成25年度第8回理事会が5月29日午後、県協会会館において開催されました。午前に正副会長会議が行われた後、石坂会長はじめ理事等19名出席の下、「平成24年度神奈川県交通安全協会事業報告」、「平成24年度神奈川県交通安全協会決算報告」等について審議されました。



地区交通安全協会新会長紹介（敬称略）



相模原南 大磯地区 藤沢市 葉山町 高津
町田國廣 杉原芳明 山口幸雄 加藤清 沼田忠男
(5月25日付) (5月27日付) (5月24日付) (5月22日付) (5月17日付)

《いづも自転車大会への取り組み》

金沢交通安全協会事務長 早坂 光男

金沢区は、称名寺や県立金沢文庫などに代表される鎌倉時代からの名所旧跡も多く、歴史の感じられる街であるとともに、市内で唯海水浴ができる海の公園や八景島・金沢自然公園など海と緑豊かな自然環境にも恵まれ、歴史的遺産と新しさが共存している街です。

これから夏場に向け、潮干狩りや海水浴で賑わいを見せる季節となり、交通量も多くなることから交通事故の増加が懸念されるところでです。

今から8年前になりましたが、小学生の男の子が自転車に乗車して道路を横断中、トラックに巻き込まれ、亡くなるという痛ましい事故が発生しました。こうした悲惨な事故を二度と発生させてはならないと、金沢警察署と連携し、子ども保護者及び高齢者を加えた三世代交流による自転車競技を通じ、交通安全への意識を高め、交通ルールやマナーを身に付けさせることにより、自転車による交通事故の防止を図ることを目的に「金沢区自転車マナーアップ三世代大会」を立ち上げました。

この大会も今年で8回目を迎えますが、チーム構成は、小学生3名、保護者1名、高齢者1名の5名編成で「学科テスト」、「走行テスト」を行い、優勝チームには県大会に出場してもらっています。昨年は11校70名の方の参加があり、金沢小学校が2連覇を果たし、7月に横浜文化体育館で開催された県大会に出場しました。

残念ながら、団体での入賞はできませんでしたが、部門別で1名が入賞することができました。



また、昨年からは、子ども自転車大会と併せて高齢者自転車大会が開催されましたが、見事「金沢チーム」が優勝しました。優勝した高齢者3名の方は、炎天下、小学生と一緒に猛練習に励んで大会に臨んだ結果、栄冠を手に入れることができました。

今年も2連覇を目指したいと思っておりますが、昨年は、高齢者の方の応募が少なく苦慮しましたので、早いうちから出場チームの募集チラシ等を作成し、シルバードームの方や各小学校の校長先生・PTA会長・各町内会長等の会議の席上でも協力をお願いし、募集しております。

今年も「はまっこ交通安全教室」を担当している交通指導員が中心となって子ども達を指導し、上位入賞を目指して頑張りたいと思っております。

優良二輪車安全運転特別指導員表彰の伝達

さる5月25日(土)、永年にわたり二輪車安全運転講習会、グッドライダーミーティング、法定原付講習の指導員として、また、二輪車安全

運転大会の審判員として、二輪車運転者の安全運転技術向上及び安全マインドの形成・向上に寄与し、二輪車の安全運転及び交通事故防止に貢献された二輪車安全運転特別指導員の木村京化さん(写真左)、



二輪車安全運転指導員の藤井正一さん(写真右)の両名に対する全日本交通安全協会からの表彰の伝達と県二輪車安全普及協会から記念品の贈呈が行われました。

～「自転車交通事故多発地域」の指定～

神奈川県交通安全対策協議会(会長:黒岩県知事)では、平成24年中の自転車交通事故の割合(構成率)が県内平均より3ポイント以上高い17地域を、「自転車交通事故多発地域」に指定し、自転車の交通事故防止対策を重点的に推進しています。

●指定市区町 (5市10区2町:計17市区町)

平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、大和市、座間市、横浜市港北区、瀬谷区、川崎市川崎区、幸区、中原区、高津区、多摩区、相模原市緑区、中央区、南区、寒川町、開成町

期 間

6月1日(土)～6月30日(日)

趣 旨

神奈川県交通安全対策協議会の主催により、多発する二輪車の交通事故防止と二輪運転者の交通安全意識の向上を図るとともに、暴走族追放気運を醸成して、加入防止を促進するため、県民総ぐるみの運動を展開します。



スローガン

運転に ゆとり やさしさ 思いやり
暴走は しない させない ゆるさない!

重 点

- 1 二輪車の交通事故防止
- 2 暴走族の追放



交通安全協会の主な推進事項

- 暴走族・二輪車の無謀運転追放キャンペーンなどを実施し、広報啓発活動を推進します。
- 二輪車安全運転講習会、暴走族加入防止教室などの交通安全教育の場への積極的参加を呼びかけ、支援活動を行います。

二輪車交通事故防止及び

暴走族追放強化月間

第44回二輪車安全運転神奈川県大会の実施結果

神奈川県警察、公益財団法人神奈川県交通安全協会、神奈川県二輪車安全運転推進委員会主催による第44回二輪車安全運転神奈川県大会が5月25日(土)、神奈川県自動車運転免許試験場で開催され、78名が参加し、熱戦を展開しました。

大会は、Aクラス前年優勝者小倉選手の選手宣誓等開会式の後、出場二輪車の排気量及び選手の性別、年齢等により、A、B、C、女性の4クラスに分かれ法規履行走行(スタート、踏切、横断歩道、交差点、ゴールの5地点チェック)と技能走行(コーナリング、ブロックスネーク、応用千鳥、ストレートブリッチ、コンビネーションスラローム、スラロームの7課題チェック)を行い、安全運転を競いました。県警の協力により競技の合間に、「二輪ライディングシミュレーター」を活用した交通安全教室を開催したほか、競技終了後は県警白バイ隊員、二輪車安全運転推進委員会特別指導員による模範走行・指導が行われました。白バイの華麗なテクニック走行に拍手が送られ、参加者からは、「白バイと走れる楽しみもあり、来年も出場したい」との声が寄せられました。

入賞者は次のとおりです。(敬称略)

Aクラス

(50cc以上400cc未満)

- ①小倉 剛
- ②田口雅勝
- ③藤井峰夫

Bクラス

(400CC以上)

- ①川島貴仁
- ②石井孝幸
- ③矢吹智典

Cクラス

(原付50CC未満,20歳未満)

- ①小菅凌
- ②小泉誠弘

女性クラス

(原付50CC未満)

- ①北小路結花
- ②富岡敦子



(右からA、B、C、女性クラスの優勝者)

上位入賞者の中から、8月3、4日の両日に三重県鈴鹿市で開催される全国大会に向けて訓練する選手を選考し、訓練成績等により各クラスの全国大会出場者を決定します。

関東管区警察局長・ 関東交通安全協会連合会会長連名表彰

交通安全功労者等に対する関東管区警察局長・関東交通安全協会連合会会長連名の表彰式が5月17日(金)、当県協会専務理事や県内の受賞者も出席して埼玉県浦和市内のホテルで行われました。本県の受賞者は次のとおりです。

● 受賞おめでとうございます

- 交通安全功労者
 - 芝垣真太郎(伊勢佐木) 高木博見(戸部) 木村勝義(港北) 内野昇(青葉) 小泉俊男(都筑) 廣田和彦(戸塚) 横山好子(中原) 前嶋喜義(高津) 本多修一郎(高津) 大津茂(多摩) 土志田巽(麻生) 中村昌弘(横須賀) 藤井正(横須賀) 鈴木玲子(葉山町) 小塚武郎(藤沢市) 坂尻広文(平塚市) 北潟一郎(小田原) 柳川辰男(小田原) 井上實(足柄) 繁田勝海(秦野市) 柳川操(厚木警察署管内) 三栖幸雄(厚木警察署管内) 等間實(大和綾瀬) 岡部利夫(海老名市) 乾克明(相模原北)

● 優良交通安全協会

- 山手交通安全協会 (会長 佐久間遵一)
- 瀬谷交通安全協会 (会長 渋谷正継)
- 座間交通安全協会 (会長 曾根寿一)
- 津久井交通安全協会 (会長 諸角光雄)
- 交通安全協会優良職員
 - 鈴木芳子(戸部) 横山美佐子(高津) 木済剛久(多摩) 市川信子(逗子市) 峰崎千枝子(藤沢市) 宮戸康夫(大磯地区)



新任事務長を紹介～よろしくお願ひします～

【抱負】

本年4月、横浜水上交通安全協会の事務長に就任致しました荒木と申します。

昨年6月より事務局員として前事務長に同行し、各種交通安全キャンペーンや研修等に参加・体験させていただきましたが、いざ事務長となりますと職の重さを痛感し、改めて交通安全の重要性を自覚するとともに、安全協会としてもその普及高揚の必要性を思い知らされる次第でございます。

当協会管内の特徴は、水域が97%、陸地が3%と陸地エリアは狭いのですが、会社・工場も多く、港湾関係事業者のトラックや通勤車両などのほか、大型観光客船が寄港する大棧橋国際客船ターミナルを控え、さらには複合型商業施設のワールドポーターズや横浜赤レンガ倉庫など観光スポットが集中し1年中観光客が絶えないことから、大型バスをはじめマイカーなどの陸上交通も輻輳しています。また、横浜国際マラソンや世界トライアスロンシリーズ横浜大会など交通対策を伴うイベントも開催され多くの人で賑わっています。

地元関係者の方はもちろん、観光客等横浜港を訪れる皆様にも、交通事故のない安心して楽しめる観光地となりますよう、微力ではございますが、交通安全活動に取り組んでいきたいと思っております。

【プロフィール】

横浜市出身。妻と2人の娘の4人暮らしですが、飼っている犬(シーズー)がオスで、何とか女性群の優位性から免れております。趣味はスキー、ゴルフ、ボーリング等でしたが、後から始めた人に追い越され、スポーツのセンスの無さを痛感して全てやめました。

今は、観賞魚(60cm水槽2個)を楽しんでいます。



横浜水上交通安全協会
荒木 和夫事務長

【抱負】

宇津木正美です。よろしくお願ひします。自分では性格は明るい方だと思いますので、周囲を明るくし、毎日、和やかな雰囲気の中で仕事をしたいと思ひます。

「失敗があっても努力すれば、成功を重ねることは可能であります。失った信頼を回復することは困難を極める」ことから、「思いやりを忘れず誠実に対応し、信頼を得られるように努力する」ことを信条として安全協会の事務長職を全うしていく所存であります。

私自身に自慢することは特にありませんが、強いて言えば、これまで運に恵まれ、人に恵まれてきたような気がします。公私共に、良い上司や先輩、同僚、後輩に恵まれ、いろいろな失敗や困難に遭遇したとき、あるいはうれしかったときは、こちらから連絡する前に電話などで励ましやご指導をいただけてきました。当時は、普通に感謝の気持はありましたが、本当に心からありがたいことに気がつかず、県警察を退職後の今、そのありがたさをしみじみと身に染みて感じている次第で、私の財産でもあり、今後も人との繋がり、絆を大切にしていきたいと思ひます。

青葉区に住むようになって30年、住民は穏やかでやさしい人が多いと感じていましたが、当協会に勤めて1カ月余り、協会を訪れる人に接してもその思いは今も同じです。職員も勤めもあるのですが、免許更新等で訪れる方の5割以上が「こどもの安全のため」などと快く安全協会に入会していただけます。年齢を重ねて涙もろくなるとともに、感動し易くなったせいか、交通安全活動等のボランティア精神や安全協会に入会する区民の心意気に幸せを感じるというか、感動を味わうことができます。

事務長として、私のこれまでの知識や経験が少しでも交通安全にお役に立てればと思ひています。最後に一言「がんばります。」

【プロフィール】

出身は横浜市南区です。現在は青葉区に居住し、妻と息子の3人家族です。警察の交通関係の経歴としては昭和49年から36年間の経験があります。趣味はいろいろとやってきましたが、ほとんど辞めてしまい、今は旅行と読書に勤しんでいます。



青葉交通安全協会
宇津木 正美事務長

交通事故の悲劇に学ぶ⑤

●「天の裁きを受けた私」

文明の利器といわれる車が、突然殺人の凶器に早変わりすることは、言葉としては知ってはいましたが、しかし、他人ごとのようにしか思っていませんでした。ドライバーとして、絶対守らなければならない基本的なルールやマナーを無視したため、悔いても悔やみきれないことをしてしまったのです。酔っ払い運転によるひき逃げという、まさに極悪非道の罪を私は犯したのであります。いかなるそしりをうけようとも、まったく弁解の余地がありません。

忘れもしません、7月初旬の土曜日から釣りに出掛け、夜釣りをしながら翌日曜日の朝を迎えました。朝食をするため行きつけの食堂に行き、食事をしようと思ったのですが、暑かったのでジョッキでビールを飲み始めました。もちろん車は運転しないつもりでおりましたので、3杯飲みました。しばらくはテレビや新聞などを見ておりましたが、空腹に飲んだのと前日からの疲れも重なり、だんだん眠くなってきたのです。車中に入り、しばらくうとうとしておりましたが、どうせ寝るんだったら海岸の涼しい所がよいと思い、勝手知ったる道でもあり、「俺に限って」事故など絶対に起こすことはない、安易な気持ちでハンドルを握ったのです。

その日は、小雨の降る蒸し暑い日でした。出発して2～3分過ぎたころ、前の車を追い越し、自車レーンに戻った直後、歩行中の子供に衝突し転倒させたのです。一瞬「事故か」と思いブレーキに足をかけたのですが、飲酒運転であることと、勤務先のことや、家族のことなどが走馬灯のように脳裏をかすめ、大変なことをしてしまったと、卑劣なひき逃げの罪を犯したのであります。1～2キロメートルぐらい走ったところで後続の車の運転手に注意され現場まで引き返したのです。そのときには子供さんは草原に仰向けに寝かされ、顔から血を流しておりました。とんでもないことをしてしまったと、恐怖におののきろうばいするばかりでした。間もなく救急車が来て、被害者を病院に運び、私はその場で警察官に逮捕されました。留置場の鍵の響きが今でも耳の底に残っています。一生忘れることのできない音であり、二度と聞いてはいけない音なのです。

留置場で正気に返ったのは、午後11時過ぎでした。警察官に被害者の様子を何度も尋ねましたところ、被害者は小学校6年生で、脳挫傷で10時半ごろ病院で亡くなったと聞かされました。とたんに私はがく然とし、全身から血の気が失せる思いでした。何の罪もない、将来ある子供の生命を奪ってしまい、



なんたる愚劣な行為をしてしまったのだろう。「自分が死ねばよかった。なぜ死ななかったのか」と思わず涙にくれたのです。私は、警察に20日間留置されておりましたが、その間に、留置場の中で、懲戒免職の辞令が交付され、永年勤続の夢が断たれました。

私は保釈になり、早速被害者宅へ焼香に伺いましたが、「子供を帰してくれ」と涙を流して言われたときは、人間として最低の自分に対して怒りとご家族に対する申し訳なさで、涙がとめどなく流れました。「許してください」「申し訳ありません」と言って謝罪することしかできませんでした。将来ある子供さんの命を奪ってしまい、憎んでも憎みきれないでしょうが。私の家族や関係者の人たちが、幾度も被害者宅へ伺って、出来るだけの誠意を尽くしました。そのかいがあつてか、幸せなことに示談が成立しました。示談が成立し刑に服したからといって、私の犯した罪は消えるものでもなく、軽くなるものでもありません。今は、市原刑務所に収容されて深く静かに反省の日々を送っております。

故意ではないとはいえ、何の罪もない尊い人命を奪ってしまったという私の罪は生涯消えることはないでしょう。この重い十字架を背負い一生償っていくつもりです。

～一般財団法人 東京都交通安全協会編集発行「贖いの日々(第21集)」より～

賛助会員のご紹介

このコーナーでは、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次ご紹介しています。(敬称略)

- 三菱UFJモルガンスタンレー(株)
横浜市西区北幸
- (株)岩崎屋
横浜市中区本牧元町
- 松木徽章(株)
横浜市中区伊勢佐木町

今点けて! まだ明るいは もう暗い

その288 大和綾瀬交通安全協会

大和綾瀬交通安全協会(古郡保正会長)では、大和市民まつり会場の引地台公園に交通安全コーナーを設け、来訪者にラインチェッカー、ゴーグルによる飲酒体験を行い、飲酒運転クイズやチラシでその危険性を説明し、記念グッズを進呈してハンドルキーパーの確保を呼びかけました。



その287 高津交通安全協会

高津交通安全協会(田村克久会長=当時)では、高津駅前「ライト早め点灯」など自転車利用者に対する指導を実施した後、同駅前飲食店に開店前に訪れ、飲酒運転追放のミニ幟旗、チラシを配布しながら、ハンドルキーパー運動の実践を働きかけました。



その290 海老名市交通安全協会

海老名市交通安全協会(佐久間幸志会長)では警察署、飲食店組合と連携して相鉄線さがみ野駅前で、「STOP飲酒運転」チラシ、ミニ提灯、飲酒運転根絶協力店ステッカーなどを配布しながら、ハンドルキーパー運動の実践、交通安全を呼びかけました。



その289 厚木警察署管内交通安全協会

厚木警察署管内交通安全協会(石井廣好会長)では、相模川河川敷2カ所(厚木市元町、愛川町田代)でバーベキューを楽しむ家族などに「飲酒運転根絶」幟旗を掲げ、チラシを配布しながらハンドルキーパーの確保を呼びかけました。



ハンドルキーパー運動の紹介

インフォメーション

- 第44回交通安全子ども自転車神奈川県大会及び第2回交通安全高齢者自転車神奈川県大会 — 7月6日(土)横浜文化体育館
- 夏の交通事故防止運動 — 7月11日(木)から20日(土)まで
- グッドライダーミーティング — 7月15日(月) 厚木中央自動車学校
- 表彰審査委員会 — 7月31日(水) 県協会会館

② 厚木警察署管内交通安全協会

5月12日(日)厚木小学校体育館において、第44回交通安全子ども自転車神奈川県大会厚木地区予選会を開催しました。協会役員、学校、保護者、監督以下「県大会で優勝し全国大会へ」という意気込みの中、選抜された厚木、緑ヶ丘、清水の3小学校5チームが参加しました。結果は、緑ヶ丘小学校が優勝、第2位が清水小学校と決定し、両チームが県大会への代表として選出されました。



④ 旭交通安全協会

5月26日(日)鶴ヶ峰自動車学校において、警察署等と連携し、旭区内の小学生、保護者、高齢者など計77人が参加して「旭自転車マナーアップ大会」を開催しました。大会では学科と交差点走行やジグザグピン走行などの技能について個人競技を行い、競技の結果は年代別に成績上位各2名が表彰され、今後県大会への出場を検討する予定です。



県大会へ向けて
各地区で自転車競技大会

① 三浦市交通安全協会

5月11日(土)三浦市の潮風アリーナにおいて、第6回三浦市自転車マナーアップ大会を開催しました。市長や警察署長などの臨席と県警の指導協力を得て、市内7小学校18チームが参加して学科試験、実技走行に熱戦が繰り広げられた結果、初声小学校Aチームが優勝、同校Cチームが第2位、名向小学校Bチームが第3位に輝き、優勝校と第3位校が県大会への代表として選出されました。



③ 金沢交通安全協会

5月18日(土)金沢地区センターにおいて、区長、警察署長等臨席の下に第8回金沢区自転車マナーアップ三世代大会を開催し、13チーム65人が参加しました。大会に併せて、衝突実験を行うなど交通安全教室を開催しましたが、競技の結果は、大道小学校チームが優勝し、高齢者チームとともに子ども及び高齢者自転車県大会に出場することとなりました。





港北交通安全協会
副会長
白井 義常さん



今回は、港北交通安全協会です。平成3年から副会長を務める白井義常さんを紹介します。

白井副会長は、見るからにエネルギーが83歳とは思えないほど若々しく、その経歴や功績を拝見しますと、交通関係以外の活動においてもボランティア精神旺盛な方で、その元気の源は、以前は柔道と農業で身体を鍛えたこと、現在はカラオケとグラウンドゴルフを楽しむことだそうです。もちろん、車の運転も現役バリバリで、先般も自ら軽トラを運転し、青森まで荷物を搬送したそうです。

安全協会には、昭和20年代当時、三輪自動車を所有していたことから入会し、港北警察署が神奈川警察署と川和警察署(当時)から分離独立した昭和42年から理事、同59年には常務理事(支部長)に就任し、現在は副会長を22年間続けておられ、県交

通安全協会の個人賛助会員としても協力しています。

副会長は、10人兄弟の6番目、農家の長男として生まれ、田んぼや畑、乳牛の飼育など農業をしておりましたが、東京オリンピックに合わせて東海道新幹線が開通したり、環状2号線が整備されるなど都市化が著しく進展したため、県内外を含めて不動産管理等の仕事に比重を移し、今ではその仕事も息子さんに譲つて、いろいろなボランティア活動に携わっています。

昔の思い出として、今と違って防寒着等の装備も貧弱で、冬の寒い中での交通安全活動は大変だったが、港北警察署が発足した当時は田んぼも多く、蛙の鳴き声を聞きながらドジョウを掬い、ドジョウ鍋を署員と囲んだ温かい記憶もあるそうです。

これまでの交通安全活動を通じて、昭和49年の港北区長賞を

皮切りに、県協会長、県警察本部長、関東管区警察局長、県知事、全日本交通安全協会会長等から表彰されており、その他少年補導員の活動歴も長くその会長までも務め、更には消防団活動の功績により平成15年に「瑞宝単光章」という叙勲の栄誉に輝いています。

今年の港北区内の交通事故情勢は、死者数こそ前年同数ですが、二輪車及び自転車の関係する事故、高齢者の関係する事故を中心として発生件数、負傷者数とも増加傾向にありますのでタレントを招請した交通安全運動などを推進し、交通ルールの遵守、マナーの向上を区民一人ひとりの心に訴えていきたいとこのことです。

健康の秘訣は? と聞きますと、即座に「カラオケ、グラウンドゴルフ」と声高に答え、「旅往けば一駿河の国に……」と浪曲も唸り、酒もタバコもやらず「カラオケならいつでも付き合うよ」と、元氣そのものですが、今後とも健康に気をつけて交通安全活動によりよくお願いします。

(取材協力: 港北交通安全協会)

こんにちは 「多摩交通安全協会」です

多摩交通安全協会は昭和37年に発足して、昨年、創立50年を迎え、また、平成23年10月1日に一般財団法人多摩交通安全協会として新たなスタートを切ってから本年度で3期目に入りました。

これも現在の当協会の代表理事である原田会長のリーダーシップ、協会役員、支部役員等の活動と協力の賜と思えます。

当協会は理事・評議員・監事の本部役員その他、6支部から構成されており交通指導員、地域交通安全活動推進委員(以下「推進委員」という。)もそれぞれの支部に属しています。

各支部は10から20人の支部役員、支部員が所属し、支部独自の活動は会長の承認のもと支部長を中心に活

動をしています。当協会の会長は多摩区交通安全対策協議会(以下「多摩区交対協」という。)の副会長の立場にもあることから、各季の交通安全運動や強化月間にあたっては、多摩警察署、多摩区交対協等と連携を密にし、事前に当協会事務所において関係者出席による事務局会議を開催しています。そこで活動内容等の計画を立案し、後日、多摩区交対協合同会議において承認を得たうえ、当協会の活動、任務分担については、会長名で各支部に連絡し、各支部の役員、交通指導員、推進委員等の動員を求めて活動します。

現在は、春の全国交通安全運動から始まった区内公立小学校14校、市立小学校1校の新入学児童に対する歩行訓練や、3年生の自転車安全教室等に支部の交通指導員、推進委員が活躍中です。

これら協会の活動ぶりを少しでも



会員の皆様にアピールするため、当協会事務局の中からイラストの得意な職員を編集長? に据えて、平成22年から「多摩ほっこりかわら版」と題して、手作りにこだわった「ほっこり」する機関誌をシーズンごとに発行しております。この「かわら版」は賛助会員さん等各方面に評判が良く、毎回増刷して対応している状況です。これからも多摩区内の交通安全を推進するため、当協会の役員以下、事務局も頑張って活動してまいります。(木済 記)

地区交通安全協会の活動紹介



川崎
地区中央対協として区役所に集合し、銀柳街等4カ所に分かれて啓発グッズを配布しながら、正しい交通ルールの遵守とマナーの実践を呼びかけました。

泉
立場駅前で各団体40人と連携し、自転車のタイヤ空気圧プレードキなど無料点検整備を兼ねて「マナーアップ」を呼びかけ、自転車利用者から購入以来の整備と感謝されました。



藤沢北
「子どもスポーツ祭り」に合わせて、「自転車安全フェスティバル」を開催し、自転車シミュレータ、飲酒ゴーグル3人乗り自転車等を貸し出し、事故防止を呼びかけました。

横須賀
リビングよこすかで警察署市等と連携して、チラシや親子連れの自転車利用者には子供用ヘルメットを配布しながら自転車の安全利用を呼びかけました。



海老名市
市北部公園多目的広場でポーターアウト20人に自転車の安全な乗り方教室を行い、交通ルールマナー、点検要領等を指導して自転車事故防止を呼びかけました。

伊勢原
伊勢原小学校で児童20人、高齢者40人が参加して、チリンスクールを開催、体育館で座学講習、校庭で基本走行、安全確認等実技講習を行う。安全な乗り方や交通事故防止のポイントを指導しました。



相模原南
南区内県立5高校で実施する「交通安全デー」に呼応して各校ごと、教員PTA、母の会等が自転車事故防止などの声かけを行い、マナーアップキャンペーンを行いました。

相模原
淵野辺駅南口で、中央区県立5高校、警察などで組織する自転車マナーアップ呼びかけ隊60人が、自転車利用者へ啓発物を配布しながら自転車事故防止やマナーアップを呼びかけました。



自転車マナーアップ運動

6月、本年も半年が過ぎようとしています。これからうつつしい梅雨を迎えます。梅雨といえば、日本は雨の多い国なのでしょ。イギリスも雨の多い国なのですが、映画などを見ますと、あちらの雨はレインコートが似合うようですが、日本の雨には傘が似合うような気がします。雨が気になりましたので、ちよと雨について調べてみました。雨の降り方や雨の量、季節、時間帯等によっていろんな言葉が見つかりました。季節を代表する雨の言葉は、時雨(しぐれ)、春雨(はるさめ)、梅雨(つゆ)、秋雨(あきさめ)、水雨(ひさめ)などゆかしい言葉があります。雨の降り方や雨量などでは、小雨、煙雨(えんう)、狐の嫁入り、村雨(むらさめ)、霧雨(きりさめ)、俄雨(にわかあめ)、夕立などゆかしい言葉もあれば、豪雨、土砂降り、雷雨、最近ではゲリラ豪雨など、ゆかしいなどと言ってられない言葉もあります。

雨と言えば、交通事故との関係も気になります。そこで、特に梅雨の季節と交通事故の関係の関係を調べてみました。常識的に考えると、雨の日はお年寄りの外出、自転車、二輪車利用が減少する反面、自動車利用が増加することが考えられますが、残念ながら梅雨の時期の交通統計はありません。そこで、6月と7月の統計を拾って見ました。平成21年～平成24年の4年間を見ますと、2カ月間の月平均では、事故件数は3,365件、亡くなった方は12.5人で、4年間の月平均では、事故件数は3,348件、亡くなった方は14.95人でした。これを見ますと亡くなった方は多少差が見られますが、交通事故が減少するとは言えません。なかなか、自然頼みでは交通事故を減少させることはできないようです。道路交通は人で構成されているものです。やはり、地道に交通安全運動を展開していくことが、遠回りのようでも最も効果的な活動であると思います。

(只野 記)

編集後記